

平成27年度卓話集会におけるディスカッションの概要

No.	地区名	質問・要望・提案	回答
1	生沢	移住と定住の確保とあるが、生沢地区は住むところが限られている。移住・定住についてはどのように考えているのか。	大磯町は、市街化区域と市街化調整区域の割合は3:7である。町の人口が3万3千人であれば、3割の割合で対応できる計算値になるそうだ。よって、制度的にこの割合を増やしていくことは難しい状況である。町としては、いかに市街化区域に住んでもらうかなど、市街化調整区域では環境に適した暮らしを進めていくかを推進しなければならないと考えている。
2	生沢	市街化調整区域を外してもらいたい。農家にしか売れないし、金額も決まってしまう。売りたいくても売れない。市街化調整区域の3割を決めた時代は、農業が強かった。今では、サラリーマンが多く、大磯町はベットタウンに近い。見直すべきではないのか。	町の考えだけで簡単に市街化調整区域を変えることはできない。
3	生沢	町の移住・定住の対策はどのように、考えているのか。具体的に示してほしい。	<p>今、町が進めている大きなスローガンは「交流人口を増加、定住人口の安定化を図る」。町外から来た人に聞くと、大磯町には住んでみたいと思う素敵な魅力を感じるとの話を多くいただいている。</p> <p>大磯町を知ってもらうためにも、来てもらい見ってもらうために、観光に力を入れている。箱根や鎌倉のように人が来て、お金を使ってもらい町が潤うのではなく、大磯に来てもらい、大磯の良さを知ってもらうことで大磯に住んでいただく取組みを進めている。</p> <p>大磯町の傾向として、毎年200人くらいの出生数があり、300人くらいの方が亡くなっている。しかし全人口数は変わらず、小学校の入学時の人数は250人くらいである。このことから、子育て世帯の人が多く転入してきている状況が分かる。この傾向を継続するためにも、子育てで選ばれるような町になるような政策をしていかなければいけないと考えている。そのためにも、子育て世帯の方が転入してくるような政策をしていきたい。</p> <p>また、空き家が増えている。それに反して、新築も多い。その空き家対策としてモデル的な事業を実施している。また、認定こども園が来年、駅前に開設される。こういった選択肢の幅を広げるような取組みも行っているところである。</p>

No.	地区名	質問・要望・提案	回答
4	生沢	若い人が住むには、やはり病院。子どもが地元で産めるという事が重要だと思ふ。東海大学に産婦人科を復活し、そこで安心して子供を産める、大磯町に来ればそういった環境がそろっているとPR出来るのではないか。	産科については、現在休診中であり廃止ではない。年間200人の出生という人数が、統計的にも出ている。東海大学大磯病院に産科が出来ればそれが一番いい。 この努力は今後も続けていく。
5	生沢	雇用問題についてどのように考えているか。具体的に示してほしい。	現在、大企業は無いため、税収を上げるには若い人の税金に頼るという事は分かり易い。 土地の利活用には大きな仕掛けが必要となる。農地を利用する方法を考えていきたいため、今後も話していきたい。 実際に、農業を会社で組織としてやっているところもあり、農業の企業化を図るのも一つの手段である。
6	生沢	二宮町が消滅可能性自治体とあるがどういった理由なのか。欠点がどこにあるか。山を開いて家を建て人口が増えた。多少工場もある。それでもやっていけないとは、どういう事なのか。	町が継続していくには、出生率に大きな影響があり、20代から40代までの女性が他町村に転出する傾向がある。その結果、出生率が下がり、転入者がいなくなるとその町はどんどん先細りしてしまう。その結果、消滅の可能性があるとの事。

No.	地区名	質問・要望・提案	回答
7	生沢	<p>教育長が各市町村異なる。これにより、教育方針が異なり、高校に行き、市町村間の違いは出てこないか。広域で、大磯、二宮、平塚で一人の教育長の方が良いのではないか。</p>	<p>違いはあるかもしれないが、統一というのが一概に良いとは言うことはできない。 また、教育長には任期があり、誰になっても方向性が変わらないように「教育大綱」を策定する。教育は長い期間で考えるものなので、度々変えるものとは考えていない。</p>
8	生沢	<p>未病について、高齢者が4割。医療にかからないように、どう考えて、どうやって行くのか。</p>	<p>右肩上がりの医療費が財政負担となっている。町としては、食生活とスポーツを考えている。 ロコモ予防の普及をしており、転倒防止に力を入れている。最後まで自分で歩けるように、また、食事で健康維持できるように、ロコモチェックを実施している。</p>